

令和5年度(2023年度)

運営に関する計画

大阪市立敷津浦小学校

令和6年2月

大阪市立敷津浦小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の課題としては、豊かな人権感覚を身に付けさせると共に、「基礎・基本的な学力の定着と向上」「基本的な生活習慣の育成」「教師の指導力の向上」があげられる。

「基礎・基本的な学力の定着と向上」については、普段の授業による教科指導だけでなく、家庭での学習の充実等も含めた教育活動全体の取り組みを通して、基礎・基本の定着と学ぼうとする意欲(学習意欲)を向上させていくことが大きな課題である。また、若手教員が多い現状からも「教師の指導力の向上」が喫緊の課題である。人権教育を柱とした本校の特色ある取り組みを継承・発展させるとともに、教科・領域等での基本的な指導力の向上を図り、児童が「わかりやすい」「楽しい」と思えるよう、指導力の向上に取り組んでいかなければならない。

「基本的な生活習慣の育成」については、自立した生活態度につなげていくことから児童への指導と共に、保護者への働きかけも行っていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・毎年度末の校内調査において不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
(前年 1.1%)
(施策1 安全・安心な教育環境の実現)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の70%以上にする。(前年 85%) (施策2 豊かな心の育成)
- ・令和7年度の校内アンケートにおいて「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。(前年 89%) (施策2 豊かな心の育成)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内アンケートで「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の90%以上にする。(前年 90%)
(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「話し合い活動を頑張っている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の87%以上にする。(前年 89%)
(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)
- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「体育の学習は楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の93%以上にする。(前年 96%) (施策5 健やかな体の育成)
- ・令和7年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の93%以上にする。(前年 94%)
(施策5 健やかな体の育成)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の90%以上にする。(前年 93%)
(施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)
- ・令和7年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の88%以上にする。(前年 87%) (施策8 生涯学習の支援)

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和5年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。（前年77%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（前年1.1%）
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・令和5年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年92%）
- ・令和5年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。（前年83%）
- ・令和5年度の校内アンケートにおいて、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。（前年89%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合30%以上にする。（前年34%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（前年83%）
- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。（前年78%）
- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。（前年68%）

学校園の年度目標

- ・令和5年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。（前年92%）
- ・令和5年度の校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を89%以上にする。（前年90%）
- ・令和5年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年96%）
- ・令和5年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気を付けている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年94%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・デジタル教材を使った自主学習を週3回以上する。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の労働時間に関する基準1(1ヶ月の時間外労働が45時間以内)を満たす教員の割合55%以上にする。（前年50%）

学校園の年度目標

- ・令和5年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。（前年93%）
(施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進)
- ・令和5年度の校内アンケートにおける「読書が好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。（前年85%）
(施策8 生涯学習の支援)

年度目標	達成 状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を78%以上にする。 (前年77%) 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(前年1.1%) 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善割合を増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の校内アンケートにおいて、「学校に行くのは楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。(前年92%) 令和5年度の人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。 (前年83%) 令和5年度の校内アンケートにおいて、「すすんであいさつをしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。(前年89%) 	B

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや問題行動の未然防止に努め、いじめの早期発見、早期解決に取り組む。 いじめや問題行動等が生じた際、生活指導報告書を作成し、全職員で共通理解を図る。 毎月、各学年で児童の様子を記録した文書を作成し、生活指導部を中心に全職員で共通理解を図る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを学期に1回以上実施し、認知したいじめをすべて解消する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回以上、いじめアンケートを実施し、状況に応じて適切に対応することで、いじめの早期発見・早期解決につなげることができた。 問題行動等が起こった際は、当該学年を中心に、また状況によって隣接学年や生活指導部を中心に対応する等チームで対応することができた。また、起こった事案について全体で共有をしたものの、生活指導報告書を作成していない事案もあったため、作成の基準を設ける方向で進めていく。 	
これからの改善点	
<ul style="list-style-type: none"> いじめに関して、教職員がいじめ対策基本方針を確実に理解することで、起こった事案について組織として対応できるようにする。 取組内容①に「いじめや問題行動等が生じた際、生活指導報告書を作成する」と記載していたが、いじめが起こった際は、別の所定の報告書があるため、今後、そちらに移行する。 心の天気を積極的に活用し、児童のメンタル面の変化を読み取り、子どもたちの不安を取り除けるよう対応していく。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【施策2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を推進し、児童や教職員の人権感覚の育成、向上を図る。 ・人権デーを学期に1回実施する。実施後には振り返りや共通理解を図り、児童の互いを大切にしていこうとする態度を養う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権デーの実施アンケートにおいて「よく考えた」と答える児童の割合を82%以上にする。(前年83%) 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象に人権教育について校内研修を年2回行い、人権教育の推進及び、人権感覚の育成に努めた。また、人権デーの実施日を1回につき2日間設定することで、教職員が互いに授業参観ができ、豊かな人権感覚の育成につなげることができた。 ・人権デーを学期に1回以上、児童の実態に応じて取り組むことができた。人権デーの後はふりかえりを行い、日々の指導に生かせるようにした。また、指標に対する数値も88%と目標の数値を大きく上回っている。 	
これからの改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教職員が人権デーだけでなく、日常的にあらゆる人権課題に気づけるようにしていく。また、3学期だけでなく、1・2学期も人権デーの取り組みを相互に授業参観できるようにすることで、年間を通して深い学びが実現できるようにしていく。 	

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容③【施策2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を中心に学期に1回以上あいさつ週間を実施し、朝会や集会、ポスターなどで啓発する。 ・児童のあいさつの意識を高めるために、年間15回以上、各学級であいさつデーを実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「すすんで挨拶をすることができますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。(前年89%) 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を中心として、学期に1回あいさつ週間を実施できた。あいさつ週間では、1年間のあいさつのスローガンを決め、玄関に掲示したり、あいさつの池を作成したりし、運営委員会だけでなく、学校全体であいさつに取り組めるようになっている。 ・2学期以降はあいさつデーを15回実施できた。 ・取組の結果、校内アンケートにおける「すすんであいさつをすることができますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は、85%を超える結果となったが、地域の方や当該学年以外の教員へのあいさつが消極的である。また、あいさつ週間やあいさつデー以外の時には、あいさつが返ってこなかったりすることもある。 	
これからの改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ週間やあいさつデーの取組から、積極的にあいさつができている様子が見られるので、今後も継続していく。 ・教職員が普段から積極的にあいさつをし、すすんであいさつができる雰囲気づくりをしていく。 	

年度目標	達成 状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合30%以上にする。（前年34%） 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一の母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（前年83%） 令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。（前年78%） 令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。（前年68%） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の校内アンケートにおける「学校の勉強がよくわかる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。（前年92%） 令和5年度の校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年90%） 令和5年度末の校内アンケートにおける「体育の学習が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年96%） 令和5年度末の校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気を付けている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。（前年94%） 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本の確実な習得を図るために昼の学習の時間に算数タイムを設ける。 算数科の授業において、児童が1時間の学習過程が分かるノートの使い方を身につけられるように指導する。 教員の指導力向上をめざし、校内研修（メンター研修等）を企画し、計画的に実施する。 全教員が対話的な学習をめざして、1回以上の研究授業を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「学習に進んで取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を88%以上にする。（前年90%） 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを週に2回設け、四則計算のプリントを中心に組み組んだことによって、基礎学力の定着を図ることができた。さらに計算問題にあきらめずに取り組む児童が増えた。 ノートの使い方の基本型を共有し、学校全体で一貫したノート指導を行い、1時間の流れについて見通しをもって学習に取り組めるようになった。 校内研修（メンター研修等）を計画的に実施し、教員の指導力向上につながっている。 全教員が対話的な学習をめざして、一人1回以上の研究授業を実施することで、教員の指導力向上につながることができた。 	
これからの改善点	

・「エビデンスベースの学校改革」の算数チャレンジテストの結果分析をすることにより、課題を視覚化することができた。引き続き、算数タイムを設け、個別最適な学びにつながる取組にしていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容②【施策5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体づくり運動」などを実施し、児童が体育を楽しんでいる場を設定する。 ・校内で「体育の動きの特性」について研修会を年間2回以上実施する。 ・「かけあし週間」や「なわとび週間」などを実施し、学習カードを活用することで児童の学習意欲を高められるようにする。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「体育の授業が楽しい」の項目について肯定的な回答を90%以上にする。(前年96%) 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・体育の学習において、体づくり運動を取り入れた授業を積極的に導入することができた。
- ・校内アンケートにおける「体育の授業が楽しい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は95.0%であり、目標を達成することができた。しかし、アンケート結果を見ると学年間に差があることが明らかになったため、今後も体づくり運動を継続して実施する中で、系統立てた指導を進めていく必要がある。

これからの改善点

- ・体づくり運動を継続して進めていく中で、具体的な方法について提示することで、教員一人ひとりが体づくり運動に関するバリエーション増やし、積極的に授業に導入できるようにする。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容③【施策5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童がハンカチを身につけ、手洗い・うがいの後に手をふく習慣をつけることができるよう指導を行う。 ・週に1回、保健委員会が各学級をまわり、ハンカチ・ティッシュを身につけているかチェックを行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートで「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、肯定的な回答を90%以上にする。(前年94%) 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の保健調べでハンカチ・ティッシュ・爪・寝る時間・朝ごはん・歯みがきなどを丁寧に確認することで、児童の意識向上を図ることができた。 ・校内アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について肯定的な回答をする児童の割合は94.8%であり、目標を達成することができた。しかし、声をかけないと手洗いをしない児童や、ハンカチを持ってきているにも関わらずハンカチで手を拭く習慣が身につけていない児童もいた。 	
これからの改善点	

- ・手洗い・うがいに関して、まだ習慣づいていない児童もいるため、継続して指導をしていく。また、ハンカチ・ティッシュを持ってきていない児童の家庭へ呼びかけるなどして、保護者とも連携をとっていく必要がある。

年度目標	進捗状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を使った自主学習を週3回以上する。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の労働時間に関する基準1(1ヶ月の時間外労働が45時間以内)を満たす教員の割合55%以上にする。(前年50%) <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体の85%以上にする。(前年93%) (施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進) ・令和5年度の校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を全体85%以上にする。(前年87%) (施策8 生涯学習の支援) 	B

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が、デジタル教材や協働学習支援ツールを用いた学習を週3回以上実施する。 ・デジタル教科書を積極的に活用することで学習効果を高める。 ・学校や学級が休業になっても Teams を活用して学習できる環境整備を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的回答の割合を85%以上にする。(前年度93%) 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「学習端末を使って自分で学習することができる」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が93%と目標を達成することができた。これらはデジタル教科書や共同学習支援ツールを積極的に活用することができた結果である。また、委員会やクラブ活動でも、TeamsやSKY MENUを活用し、ICT機器の活用の幅を広げることができており、日常的な危機の活用へとつなげることができた。 ・心の天気の利用については、学年によってばらつきがあることも明らかになった。 	
これからの改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって活用頻度に差があることが明らかになったため、効果的な活用方法を検討し、校内で共通理解する。 ・心の天気については、児童の心の変化を読み取ることにつながる可能性があるため、積極的に活用していく。 ・ICT機器の各家庭での活用も進めていけるよう接続テストも実施する方向で進める。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗

	状況
<p>取組内容②【施策8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が、様々なジャンルの本に読書の幅を広げられるように、学校司書等の人材と協働しながら図書館の本の配置を工夫し、環境整備を行う。 各学年ごとの図書館活用年間計画をもとに、図書館での調べ学習や並行読書などを取り入れた読書活動を充実させる。 読書ノートの使い方を工夫して、児童の読書意欲を高める。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について肯定的回答の割合を85%以上にする。(前年87%) 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について肯定的回答をする児童の割合が85%と目標を達成することができた。これらは、学校図書館司書やボランティア、はぐくみネット等と協働しながら、本の配置の工夫や学級文庫の充実を行うなど、読書環境の整備を行った結果であると考えられる。 昨年度末に各学年で修正を加えた学校図書館年間活用計画を、今年度の調べ学習や並行読書に活かすことができた結果であるとも関あげられる。 読書ノートは十分に活用できていない。 	
これからの改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 読書環境の整備については、学校図書館等の人材と協働し継続して行っていく。 学校図書館活用計画についても継続して活用してもらえるよう声掛けを行っていく。 読書ノートについて児童の読書意欲向上のための活用法を探っていくとともに、読み聞かせやお話会などの取組を充実させていく。 	

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--